



岐大通 2013

2013 J.League Division2 第2節 ギラヴァンツ北九州 戦

6/29(土) 19:00~
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

F C 岐阜大好き通信(岐大通)

6/29号

編集発行:

『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:

ささたく & 吉田铸造

today's guest : ギラヴァンツ北九州 2012 J2 19勝 7分 16敗 勝ち点 64・9位

1947(昭和22)年に設立された『三菱化成黒崎サッカー部』は、九州リーグ初年度から参加し、初代王者になるなどリーグ優勝7回(うち4連覇あり)。200年にNPO法人・北九州FCに移管され『ニューウェーブ北九州』となる。2006シーズンにはエースストライカーだった池元友樹がFC岐阜に地域リーグ決勝大会のみの短期レンタルで移籍して5試合で5得点を挙げ、FC岐阜のJFL昇格に多大な貢献を果たす。2007年の地域リーグ決勝大会で2位となりJFL昇格(優勝はファジアーノ岡山)。2009年JFLで4位、J2加盟を果たす。J2の1年目となった2010シーズンはなかなか勝てず、リーグ戦3試合勝利なしのJリーグ・ワースト記録を更新してしまう(このシーズンはわずか1勝)。しかし、翌2011シーズンは三浦泰年・新監督のもとで再生、一時期はJ昇格圏内すぐ下の5位にまで順位を上げた(最終順位は8位)。今季より柱谷幸一氏が監督に就任。(吉田铸造)

2013J2 順位表 第20節 勝点、得失点差、得点、失点、 岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	G大阪	43p	+22	38	16	A
2	神戸	41p	+16	36	20	A
3	長崎	35p	+4	24	20	H
4	京都	34p	+13	34	21	H
5	栃木	33p	+7	27	20	A
6	千葉	32p	+10	31	21	H
7	山形	30p	+12	39	27	H
8	福岡	30p	+2	21	19	A
9	岡山	29p	+5	24	19	H
10	札幌	29p	+3	24	21	A
11	東京V	28p	+6	24	18	A
12	水戸	27p	0	22	22	A
13	松本	26p	-2	19	21	A
14	徳島	26p	-5	26	31	H
15	横浜FC	23p	-4	19	23	H
16	愛媛	21p	-7	21	28	A
17	熊本	21p	-12	24	36	H
18	北九州	20p	-5	24	29	
19	富山	20p	-11	18	29	H
20	鳥取	19p	-15	18	33	A
21	群馬	16p	-15	16	31	H
22	岐阜	14p	-24	13	37	---

次回 HomeGame

第2節 ガンバ大阪戦

7/3(水) 19:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

先のV・ファーレン長崎戦で、ついに、そして待望のホーム初勝利を、あまりにも劇的な逆転勝利で挙げたFC岐阜。久しぶりの『長良川劇場』に、5,21人のサポーターも酔いしれたことだろう。続くアウェイ・ガイナレ鳥取戦でも、1-3からの劣勢を見事に跳ね返して4-3での劇的な逆転勝利を納め、今季初の連勝、そして最下位脱出を果たすことができた。しかし、前節の札幌戦は、鳥取戦で負傷した#4CB田中や帰国中の#3CBデズモンドなど、主力DFが欠場する中で守備陣の「経験値の少なさ」により自滅的に失点、0-4での大敗となってしまった。そして、再び最下位に。ホームに戻ってきて迎える今節・第2節は、全4試合のリーグ戦の折り返し地点、大事な試合となる。選手たちには、気持ちを切り替えて戦って欲しい。さて、その前半戦最後の対戦相手は、現在18位のギラヴァンツ北九州。昨年は9位と活躍したが、今季は監督・選手がごっそり入れ替わり、新たなチーム作りに着手している段階だ。そのため現在は下位に低迷しているが、前々節は7-0で熊本に、前節は3-2で鳥取に逆転勝利しており、柱谷幸一新監督の戦術が浸透し、勢いが出てきているチームと考えて良いだろう。要注意選手は、現在6得点でチーム得点王かつチームの司令塔、#10MF小手川宏基。#15FWキム・ドンフィのスピードにも注意が必要だし、“初代・FC岐阜の救世主ナンバー#32”をつけた男・#11FW池元友樹に複雑な思いを持つ古くからの岐阜サポは多いことだろう。

複雑な思いといえば、201年にFC岐阜が10月に(天皇杯を含めて)3回対戦し、3敗するという屈辱を味あわされた相手も北九州だし、201年9月に#7地主園が、右腓骨・右脛骨骨折という重傷を負った時の対戦相手も北九州だ。また、北九州の#3渡邊将基および#8八角剛史と、岐阜の#2杉山新は昨年の横浜FCでチームメイトだった仲だし、#31GK時久省吾は2011年に北九州に在籍。普段よりも更に負けたくない対戦相手に試合は激しさを増すだろう。

FC岐阜は最下位に再び転落してしまったが、2位・群馬(勝ち点16)との勝ち点差は2。今節勝利すれば再び最下位を脱出することは十分可能だし、16位の愛媛(勝ち点21)から20位の鳥取(勝ち点19)の背中も見えてくる。そういった意味でも、この前半戦最終節は、非常に大きな意味を持つ試合になるだろう。前節ではつまづいてしまったものの、最後までひたむきに走り抜き、最後には勝つ『長良川劇場』の復活を、長崎戦で僕らは見たはずだ。最後まで選手を信じて、拍手と声援を選手に届けよう。そして再び、万歳四唱でホーム戦勝利の歓喜に酔いしれようじゃないか。(ささたく)

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町 1-23

tel:058-273-8998

【第18節】岐阜2-1長崎

「サヨナラ勝ち」というか「ブザービーター」というか、「鮮やかな」という常套句がかすんでしまうようなフィナーレとなったこの試合。シーズン・チケットの顔写真が11番の試合で1番が独壇場というのも出来すぎな話。そんな長良川劇場の余韻に浸っていたところだが、目を逸らせてれば見なくて済むというワケにはいかないことばかり。なんというか、相変わらず回りくどい言い方だが、どう考えたって長崎戦は「勝ちに不思議な勝ちあり」と言わざるを得ない試合。

前半を見てたら、長崎の夢のスコア(5-0で勝つこと)もあるかも的な。実際、貴弘が止めてくれなきゃ前半で息の根が止まってたような気がする。反対に、長崎の敗因は人任せになっちゃったことか。DFは「セーフティー・ファースト」が最優先だって思い知らされたよ。あの同点弾は、DFがクリアせずGKに任せちゃったことで生まれた。でも、逆に言えば来るはずのないボールが来たワケなんで、今は北の方のクラブにいる元代表FWならふかしてたハズのQBK。ホント、よく決めてくれたよ>ソメ。

決勝ゴールも普通なら樋口に出るような気がするが、あの日は完全ソメの日だと見抜いた？ 新の判断を誉めるべきだな。その前のタクミのミスフォローしたことも含めてこの試合の新は殊勲賞！グッジョブ！！樋口に出しても決まりそうだったし、ああいう場面で樋口に決めてもらって、次の試合からはケチャップ……(大量得点)、となるのが理想だけど、スカパー！で流れたインタビューでの洗一への言葉も合わせて一番いい結果に落ちついたということか。そして、ボクが考えるもう一つの勝因はベンチに新井がいなかったこと(爆)。もし、サブメンに入ったら、またまた大作戦になってたと思う。で、それが不発に終わるというオチ。選手交替については、「じゃあ、誰を入れるんだ？」と応援しながら考えてたんだけど、ソメがシャドーで中に入ったのが功を奏したんだね。正直「入れるなら柴原くらいか。」としか思い浮かばなかった。この辺りは、監督の狙いが当たったのだから会心の起用なのかな。ところで、ウマイこと新のフォローに救われたけど、タクミがボールに乗かってコケたのって前にもなかったっけ？ 経過が薄氷を踏むようなものであればあるほど劇的に映る勝利。しかしながら、あくまで結果オーライの試合とも言える。戦力的にさほど違わないような気がする長崎だけど、そこに厳然と存在する彼我の差も認識せざるを得ない。彼らは、「手を抜かず最後まで」仲間のフォローに走る。ただ、長崎がたくさん走ってるのではなく、岐阜にそれが足りない。そんなふうに見えてしまうのが残念だ。ウチにだってできる。いつだってそう信じてる。次節もカンタンな試合じゃない。だけど、勝たなきゃならない相手。試練の6月が続きます。(くん、)

まさに劇的な、劇的なゴールが生んだ、今季のホーム初勝利。そりゃ喜んださ。メインスタンド前に戻ってきた選手と一緒に万歳四唱もやったさ。でも、心の隅っこにどうしても釈然としないモノが残っていて。

あまりに劇的な試合の終わり方だったから、長良川にいて試合開始から観ていても憶えていない方がいるかもしれない。前半終了時の、バックスタンドの岐阜サポからの大きなブーイング。ブーイングを飛ばすかどうかは別にして、飛ばしたことはないの疑問もない、そんな前半。開始5分に、正直言って「一番ゴールを奪われてはいけない相手」佐藤洗一にフリーでヘッドで決められるという大失態。その後、「ゴールを奪う『設計図』を持って攻めてくる」長崎と、「何の『設計図』も持たずに相手陣にボールを運ぶ」岐阜。長崎は前線でボールを保持すると2列目の何人が必ず追い越して行き、彼らにボールを預けると追い越された選手がまた追い越していく。寄せては返す波のよう

に、縦の出し入れを繰り返して岐阜のDFラインに圧力をかける長崎の攻撃。「攻撃の“質”」なんて言葉では表現しきれない。ぼくには「攻撃の“やり方”」そのものを知ってるか知らないかくらいの差に思えた。

ただ、その圧倒的な時間帯を洗一のシュートが続けてGKの真正面に行ったとかで凌いだことで、長崎のサッカーに隙が生まれた。森安(?)からの低いクロスは、普通にDFがクリアしてもGKが飛び出しても対応できた程度のモノだったが、両者が“お見合い”したことでファーサイドにコロコロと流れて行き、そこに詰めていたのが染矢だった。シュートをぶっ放してバーの上をすっ飛んでいくこともなく、同点。

ここから先は、プラン崩壊と体力の消耗で長崎の運動量が落ちて岐阜ペースになる。ぼくがどうしても釈然としないのはここからの岐阜のベンチワークで、どうしてフレッシュな選手を投入して一気に決着をつけにできなかったのだろう。長崎は3枚の交替枠を7分に使い切った。早過ぎたかもしれないけど、それでも“手”は打ったわけだ。岐阜だって染矢をシャドーに上げるポジションチェンジは実行してる。でも、もっと、もっと手は打てたと思うのだ。これは古株サポの過度な思い入れかもしれないけど、岐阜にとって長崎は『特別』な相手だ。7年前の地域リーグ決勝大会の当時を知る人にはもちろん、知らない人にとっても、昨年まで岐阜でもとに闘っていた主務の石崎さんや服部GM、そして洗一がいる長崎は『特別』な相手だと思う。その長崎を相手に、しかも運動量の著しく落ちた相手に“勝ち負け”の采配を打たないことに対する、強烈な欲求不満。もちろん、手は打てばいいというモノではない。打った手が裏目に出て、再び失点して試合を落としたかもしれない。でも、ぼくはそれでもよかった。手を打たずにドロで終わるより、手を打って負けた方が結果を受け入れられた。

ラストのカウンター、ボールを踏み越してしまったタクミのプレーは結果的に後ろから追いかけてくるアラタへの絶妙なパスになり、独走で持ち込むアラタの選択はフリーの樋口ではなく、より危険なポジションにいた染矢。そして決勝ゴールが生まれた。手を残したまま岐阜は勝った。勝ったことは嬉しい。とても嬉しい。でも、手を残したことに対する釈然としない気持ちは、いまでもある。

(吉田 鑄造)



本庄工業株式会社

<http://www.honj-woodream.com/>

【第19節】鳥取3-4岐阜

「彼は元気にやっていますか。どうか、彼をよろしくお願いします」。今年、スタジアム外の場で、何人かの鳥取サポにお会いする機会があったが、彼らは異口同音にそうやって、昨年は自分たちのチームでフル出場して最多得点を挙げ、しかし契約満了でチームを去った1人の選手のことを気に懸けていた。そしてそれが、多くの鳥取サポ(少なくともゴール裏)の、心の底からの気持ちであったことを、僕はアウェイの地・とりぎんバードスタジアムで思い知らされた。

前節、長崎相手に劇的な逆転勝利をした経験をリセットしたかのごとく(苦笑)、ひどい内容だった前半。なにせ攻撃の形がまるで作れていない。一時は1-3と2点差をつけられたが、それでも前半終了直前にPKで2-3と1点差にできたのが非常に大きかった。そしてまた、前節の長崎戦と同様に(苦笑)、後半からスイッチが入って試合の流れを掴み、同点、そして逆転! 2試合連続の鮮やかな逆転劇...あるいは『前半死んだふりっていつか仮死状態で後半に息を吹き返す作戦』とでも言えばいいのか(苦笑)...に、喜びすぎて疲れ果てる岐阜サポたち。その耳に、鳥取サポのコールが聞こえてきた。

「美尾敦! 美尾敦!」正直、最初僕は自分の耳を疑った。ホーム戦で逆転負けをして悔しくないはずがない。それでも、負けた直後に、今は岐阜で#10をつけている選手を呼んでいる...。その〔鳥取の〕コールに呼ばれて美尾が出てきたのを見るや、岐阜サポも、同じく〔鳥取の〕美尾コールで彼を送り出した。美尾はこちらを振り返り、岐阜のエンブレムを力強く叩くと、鳥取サポの前に向かい、深々と頭を下げた。その後、(鳥取の地元TVによると)「ありがとう!」あるいは「帰ってきてよ!」との鳥取サポの声に、美尾は「次、アウェイで待ってますんで!」と答えると、鳥取サポは〔鳥取の〕美尾チャントで、(今まで伝える機会がなかった)感謝と別れを告げた(のだと思う)。それを見届けた僕ら岐阜サポは、今度は戻ってくる美尾に対して〔岐阜の〕美尾コールで彼を呼んだ。鳥取のゴール裏で、あふれ出る想いを堪えきれなかったのだろう、目を真っ赤に腫らして、それでも、(特別の思いがあったであろう鳥取での)勝利の喜びを爆発させて両拳を突き上げ、岐阜サポの前にやって来た美尾はトラメガを受け取ると、第一声で『“岐阜の”美尾敦です!!』と叫んだ。その後、僕らは〔岐阜の〕美尾チャントで彼が岐阜に来てくれたこと、そして今日の勝利に感謝を伝えた。

「甘い」と言われる方もいるかもしれない。でも、その場にいた僕は自分の涙腺が緩むのを抑えられなかったし、そうやって愛される選手が、今は岐阜のために必死になってくれていることに、心から感謝したいと思った。劇的な逆転勝利、そして最下位からの脱出も価値ある嬉しい出来事だったが、試合後に更に感動する出来事が待っていた...今回のアウェイ遠征は、色々な意味で感慨深いものになった。(ささたく)

前節は「よくもまあ、1点で済んだよなあ~。」と思っていたら、何の罰ゲームだか今度はきっちり3点も決められた前半。それにしても、さ。判で押したような戦法で攻められて。ハイボールをつながれて裏をとられてグラウンダーのクロスでトン、と。あとで、録画を見たらそこまで同じような形じゃなかった。記憶違いでゴメンナサイ(苦笑)。でも、鳥取のいいように、狙い通りにやられているような気がしたハーフタイム。仲間の感想を聞いて、いろいろ納得。後半アタマから新井を入れる(もちろん、DFで)のを期待していたんだけどな。秀人の負傷が幸いした、というと語弊があるけど、文字通り「ケガの功名」。新井の高さが鳥取の攻めに対して有効だったのは間違いない。秀人の具合は気になるが。

誤解を恐れずに言えば「バカ試合」。正直、鳥取が後半タレた。ものすごくタレた。あとは、前半を1点差で終えたこと。で、何でPKを取れたのかは遠くてよくわからなかった。ソメキックもちょっとばかり危ういように見えたけどゴールはゴール。そして、後半に訪れた歓喜! とりぎんバードは球技専用スタジアム。メドウのような近さのゆえに、新のシュートも樋口の決勝ゴールもクロスが上がってからネットを揺らす瞬間までが手に取るようにわかるし、感覚としてコマ送りのようにも見えて興奮はMAX。こういう瞬間があるからライブはたまらない!

前半のような展開はいらない。その設定だからこそ、逆転劇が盛り上がったのかもしれないが、できれば先制して勝ち切りたい。それでも、勝ちちは勝ち。終了後の挨拶で、柴原や水野とかがいっしょに踊ってくれてうれしかったよ。今は、とにかく結果がほしい。群馬の引き分けでなんとか最下位脱出。しかし、北九州の鮮やかな炭鉱スコア.....。熊本は退場とかあったワケじゃないみたいなのに。おかげで、北九抜くのがメンドウになっちゃったが、まあ、それは直接対決で詰めれば問題ないか。ああ、それからこの一言だけは言っておきたい。「突き上げたオレの両腕をどうしてくれる?」タクミ、オマエだ! 進入角度、コース、そしてパスのタイミングやその受け方で蹴った瞬間にゴール確信してたのにさ.....。まあ、今度決めてくれれば許す。早めに頼むよ?

それにしても、ホント、よく勝てたなあ~。それから、10番が鳥取サポさんに愛されてたのがよくわかった。涙を浮かべながら鳥取サポさん達に挨拶を済ませた後こちらのゴール裏に向かって、トラメガ持って叫んだセリフにムネアツだった。共に行こうぜ! アツシ。(ぐん、)

ALADDIN

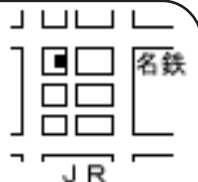
何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心 癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

「いらっしやいませ」より「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休：月曜(定休日が変わりました!)



【第2節】札幌4-0岐阜

これだけミスが続けば、そりゃ負けるわなという試合。前半の美尾のFが決まっていればとか後半頭の水野のシュートが入ってればという一面はあったけれど、それらがすべて消え去ってしまって、最後はゲームが壊れてしまった。起こしてしまったものは仕方がない、これを糧にしてこれから活かすしかない。(岐阜の誇り)

試合後、挨拶に来た選手に檄を飛ばした仲間がいた。皮肉ではなく、本気で尊敬する。ボクには発する言葉がなかった。

試合中に「あっ」とか「あ〜」とか言うことはある。だけど、「え？」と思うようなことはめったにない。何が起きたかは理解できた。ただ、なんでそうなるのかが未だにわからない。それが、3回もあつたら勝てる道理がないよ。失点はしなかったけど、前半の札幌のクイック・スタートも、ゴール前はどフリーだったね。

試合の中ではまちがいなく、ウチにも流れがあった。こんな点差で負ける相手じゃなかった。負けちゃいけない。チャレンジした結果のミスならわかる。自陣ゴール前の相手ボールで歩いているDFなんかいてほしくない。あんな気の抜けたプレーは二度と見たくない。

試合後、サッカー経験者の話を聞いた。信じられないような凡ミスをして、その後のプレー中にどうしようもなく溢れてくる涙。拭いても拭いてもとめどなく流れる涙に濡れながらプレーすることはあるらしい。なるほど。そういう感情があることはわかった。それでも、次からは試合後の喜びの泣き顔だけ見せてくれ。リーグ戦は待ってこない。次の試合はすぐやって来る。(ぐん、)

しかしひどい負け試合だった。大差で負けるような相手ではないところに、まさに自滅しか表現しようがない失点を重ねて敗れた。この試合で唯一の救いがあるとすれば「どんなにひどい負け方でも、勝ち点を剥奪されることはない」という点、くらい。

対戦相手を尊重した上でそれでも書かせていただくと、この日の札幌は決していいデキではなかった。岐阜のDFがなぜかバタバタと慌てふためいている間に先制点は得たものの、その後は岐阜の反撃を受けてなんとか凌いでいるくらい。前半終了直前には美尾の惜しいFKもあった。だから、リードされて前半が終わっても、アウェー・札幌厚別まで駆けつけた岐阜サポに焦りも戸惑いもなかった。実際、後半開始から『あの2失点』までは普通に戦っていたのだ。それが、DFラインの初歩的であり致命的であるミスからあつという間に3点差にされてしまった。

でも、果たして敗因のすべてが『あの2失点』なのかというと、そうでもないような気がする。まさに劇的なホーム長崎戦の勝利、でもあの試合のシュートはわずかに4本。アウェー鳥取戦の逆転劇だって、対戦相手が著しくパテて脚が止まったがゆえに反撃が効いた。行徳監督は「これまでは試合内容が結果に結びついていなかった」と記者会見で応えているけど、通常とは逆の意味で「内容と結果が結びつかない」のは実は2勝1分のこの3試合でも継続中だったのではないか。

試合後の選手の挨拶に、岐阜サポの多くは無言で応えた。選手にはキツかったかもしれない。けど、無言を貫く以外に選択肢がないような、そんなひどい試合だった。繰り返すが、こんなひどい負け方でもその前の3試合で得た勝ち点7は削られないということが唯一の救いだった。

(吉田鑄造)

【ユース】大勝利!!

我らがFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)は6月8日(土)にG1リーグ第4節大垣工業戦、6月22日(土)に第5節大垣西高校(以下大垣西)戦がありました。この内6月22日の試合の観戦に行ってきました。

相手の大垣西は昨年FC岐阜ユースと同じG2リーグを戦っていて、今年度のG1リーグ同期昇格した高校です。昨年も対戦しましたが、1対0で辛くも勝利した相手です。この日はG1リーグの4試合が岐阜フットボールセンターにて集中開催されました。そのうちFC岐阜ユース対大垣西の試合は9時KO。双方の家族の方を中心に数十人の方が観戦されていました。

試合は大垣西ボールでKO。序盤からFC岐阜ユースが試合の主導権を握っていました。何度目かのチャンスの後の前半14分にFC岐阜ユースが先制点! 33分にもセントリングでゴール前に上げたボールがオウンゴールとなり追加点を得ます。一方の大垣西も我慢強くプレーしていて、FC岐阜ユースの選手がミスをした時にはそれを見逃さずカウンターを仕掛けていきます。そして前半40分に大垣西が1点を取り返して「FC岐阜ユース2対1大垣西」で前半が終了しました。

後半は前半以上にFC岐阜ユースがペースを握ります。セカンドボールはFC岐阜ユースが殆どを押さえ、DFの裏に抜ける動きも成功して大垣西ゴールに迫ります。そして8分、14分と点差を上げた後、18分からは4分で3点をゲット! この時点で大垣西の選手は完全に浮き足立っていましたが、大垣西ベンチの4人交替が功を奏し、その後の試合は落ち着きを見せました。そして少し長めのATにFC岐阜ユースが追加点を入れた所で試合終了。「FC岐阜ユース8対1大垣西」の大勝となりました(嬉)。そしてようやくG1リーグで初日を出す事が出来ました(万歳~)。第5節を終えてFC岐阜ユースは暫定で7位(大垣西が8位)となりましたが、まだまだ降格圏内です。この日の勝利をきっかけにして、今後勝点を重ねて言って欲しいです。次は6月30日(日)に長良川球技メドウで関商工高校、7月6日(土)に岐阜フットボールセンターで岐阜工業高校との対戦が予定されています。貪欲に勝利を目指せ! 応援しているからな!!

FORZA! FC岐阜ユース!!

<追伸> FC岐阜の公式サイトユースチームの選手紹介のページがようやく公開されました。「アカデミー」のコーナーが該当ページです。是非見てみて下さい!(シュナ)

【セカンド】苦戦しています.....

辛島新監督のもとで東海リーグ1部を戦っているFC岐阜セカンド(以下『セカンド』)。前半の7試合を終えて3勝4敗の5位と、シーズン前は優勝争いに絡むのでは?と思われていただけに意外な苦戦を強いられています。

6月16日の日曜に、笠松町の木曾川河川敷に完成して今年から供用開始の岐阜県フットボールセンター(FC岐阜が練習場として使用しているところ)で東海リーグ・FC刈谷戦が行われたので観戦に行ってきました。

試合は1-3で敗戦。決めるべき時に決めていれば.....の思いはありますが、残念ながら全体的な試合内容の印象から判断すると負け試合だったかな、という気はします。

7月になると、全国社会人大会の東海地区予選があります。セカンドは7月6日にポラーレ浜松(静岡県L)、翌7日には「アスルクラロ沼津(東海1部)とFC刈谷(東海1)の勝者」との対戦になり、連勝すれば長崎県島原半島で開催される本大会への出場となります。会場は2試合とも長良川メドウ。是非とも、出場権を勝ち取ってほしいですね。

(吉田鑄造)